

第2コース:薬物動態1 - 製剤の選択や服薬指導への活用に向けて -

講師:長崎大学 薬学部

西田孝洋助教授、和田光弘助教授、大脇裕一講師

薬物動態は、投与量や投与間隔を決める重要なファクターであり、基本的な薬物動態パラメータは、調剤時の処方鑑査や服薬指導に活用できます。しかし、「薬物動態」や「薬物速度論」と聞くと堅いイメージを連想するため、敬遠する薬剤師が多いのではないのでしょうか。そこで薬物動態1では、薬物動態を身近に感じ、有効に活用するための勘所を把握することをねらいとしています。

第1回 「ジェネリック医薬品の崩壊性や溶出性を調べてみよう」

10 / 21 (土)

・薬物動態に影響を及ぼす製剤特性を評価するために、日本薬局方の崩壊試験や溶出試験を実際に行います。特に、ジェネリック医薬品について先発品と比較し、生物学的同等性について考察します。

第2回 「シミュレーション実験で薬物動態パラメータを知ろう」 11 / 4 (土)

・薬物動態のシミュレーション実験を、フラスコやポンプなどで組み立てた装置で行い、色素を薬物モデルとして用いて、薬物動態を視覚的に理解します。さらに、血中濃度や尿中排泄速度に相当するデータを、実際にグラフを書いて速度論的に解析し、薬物動態パラメータを計算し、添付文書や学術文献への理解を深めます。

第3回 「薬物動態をエクセルで予測し、投与計画や服薬指導へ応用してみよう」 11 / 18 (土)

・Excelを利用して、基本的な薬物動態パラメータを用いて、静脈内注射や経口投与時の薬物動態を予測します。さらに、薬物相互作用や病態時などの各種症例において、薬物動態の変動を把握して、投与計画の最適化や服薬指導へ応用する総合演習を行います。